

## 第 33 回電気通信普及財団賞

### テレコム社会科学部門 総評

第 33 回テレコム社会科学賞、テレコム社会科学学生賞についての総合的な評価です。

今回の応募件数は前回の数には及ばないものの、博士論文を元にして著書として出版された作品など、数年以上にわたる研究成果であるものが少なくなく、読み応えのある応募作品が多くありました。そのため応募作品のうち、学会の雑誌に掲載された論文等の中には明確かつ鋭い分析を示す秀作もありましたが、質的・量的総合評価の結果として、それらはいずれも最終選考の対象には至りませんでした。他方、著書としての形態ではあるが学術論文とはいえ専ら読み物として書かれた類のものは、概ね最終選考対象外となりますが、今年はその種の応募作品が例年に比べ比較的少なかったようです。

最終選考の結果、奨励賞 4 件を決定いたしました。本賞の入賞はございませんでした。その理由としては、作品によっても異なりますが、概ね以下の事由の一部が当てはまります。

- 数年にわたる研究の結実であり、作者の研究者としての能力を十分に示す作品であるが、なお研究途上にある研究者であり、今後一層精進して本賞に該当するような作品を生み出すことを期待するため。
- 論点整理が明確であって、多角的視点を示していたり、斬新な鋭い分析をしたりしている点は高く評価されるが、情報通信分野における社会科学にかかる学術作品という基準からすると、体系的視角からの展開、結論の呈示という点ではなお十分ではないもの。

なお、今回受賞した 4 作品のうち 3 作品は単一の著者によるものですが、複数の著者による作品であっても、原稿の単なる寄せ集めではなく著者等の共同研究の結実であることが、著作の内容から十分にうかがえるものは受賞の対象となり得ます。

最後に、テレコム社会科学学生賞はテレコム社会科学賞に比べて応募作品の数もやや少なく、佳作 1 件に留まりました。来年以降、グループまたは個人で、学生らしい視点で執筆された作品が数多く応募されることを望みます。